

日航労連ニュース

発行：日航労組連絡会議 TEL/FAX:03-6423-2461
日本航空乗員組合：日本航空ユニオン
日本航空キャビンクルーユニオン

あなたの声を JAL ユニオンへ

E-mail : jjmail@jj-rouso.com

2018年8月12日

Vol. 21 - 10



日本航空123便事故から33年目を迎えるにあたって

《 2018年8月12日 日航労組連絡会議見解 》

**私たちは「事故を風化させず、二度と事故を起こさない」ことを誓い、
航空で働く者として「絶対安全の確立」を追求していきます。**

1985年8月12日に520名の尊い人命を奪った日本航空123便（JA8119号機）事故から33年の歳月が過ぎました。改めて犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族の皆様
に心から哀悼の意を表します。

私たちは、事故直後から事故調査委員会の「垂直尾翼の破壊は圧力隔壁の破壊によるもの」と
する推定原因に疑問を呈してきました。2011年7月29日発行された「解説書」も「急減圧の発
生」を強調する内容となっています。事故の再調査が必要であるという私たちの立場は現在も変
わっていません。

123便事故後、経営陣は一新され「絶対安全の確立」「現場第一主義」「公正明朗な人事」「労使
関係の安定・融和」などの最高経営会議方針を発表しました。しかし、その後の実践は不十分で、
放漫経営、安全への信頼低下による旅客離れで企業体力が低下し、2010年に会社更生法の適用に
至りました。

その後、短期間での再建・再上場を果たし、2012-16中期経営計画を、毎年収支目標を超過達成
しつつ完遂させました。2017-20中期経営計画は、部門別採算によるコスト管理と利益の極大化、
株主還元の充実と前中期の流れの上にあります。今年度に入って発表された「JAL グループ中
期計画ローリングプラン2018」においては、事業拡大の経営姿勢が示されています。そして5月
14日に「国際線中距離ローコストキャリアの設立」が発表されました。

その一方、職場は、破綻時の希望退職、整理解雇の強行、その後の自主退職者によって、慢性
的な人員不足と高稼働によって様々な問題を抱えています。客室乗務員の職場では、多くの客室
乗務員が健康を害し、運航乗務員の職場では、乗務中断率の増加が止まりません。整備やグラン
ドハンドリングの職場でも、不安全事故の発生が止まりません。そして、機材品質に目を移すと
連続するエンジン故障に代表される機材の不具合は、一向に減少する気配がありません。

赤坂社長は4月3日、「安全を最優先せよ」という方針である、「揺るぎない安全を築く」との
メッセージを前社長に引き継いで発表しています。それを真に実行するためには、123便事故の教
訓から生まれた「最高経営会議方針」に立ち返り、「絶対安全の確立」に向けて現場の意見に真摯
に耳を傾ける必要があると私たちは考えています。

私たちは「事故を風化させず、二度と事故を起こさない」ことを誓い、安全運航の原点を見失
わないよう心に刻み、航空で働く者として「絶対安全の確立」を追求していきます。